

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02556

研究課題名(和文) 開発金融史のフロンティア 世界銀行の理論と政策

研究課題名(英文) Frontiers of Development Finance History: Theory and Policy of the World Bank

研究代表者

矢後 和彦 (Yago, Kazuhiko)

早稲田大学・商学大学院・教授

研究者番号：30242134

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 開発金融の思想と実践について、1950-60年代に世銀総裁を務めたブラック・ウッズ・マクナマラ各総裁の在任中に変転した融資方針と開発政策に即して検証した。この領域では、「開発」「開発金融」の歴史性が改めて強調された。(2) 開発金融と国際収支調整・国際資本移動との内的な関連を考察した。国際通貨体制の変転については従来から豊富な研究があるが、ここでは「開発」「援助」といった変数がこうした体制転換に大きな役割を果たしていたことが示された。(3) 世界銀行による借款を受け入れた国(あるいは資金調達を担った国)の対応を実証した。本研究課題では日本、ドイツ、イタリアについて成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来は開発経済学・国際金融論などの分野で相互に独立して研究されてきた「開発」という主題に経済史の視点から包括的・学際的な接近を行った。この接近を通して、開発金融の歴史性が明らかになるとともに、国際通貨システムの転換についても開発・援助のあり方が大きく関わっていたことが実証された。

今日、ODAなど開発援助のあり方が改めて議論されている国際情勢のなかで、世界銀行など国際機関における意思決定のあり方、その思想的背景や各国マクロ政策との関連などがアーカイブ資料から歴史的に実証されたことは今後のわが国の政策決定にも示唆を与えるものと思われる。

研究成果の概要(英文)：(1) This research project inquired into the thoughts and practices regarding development finances, referring to the lending and development policies under the three World Bank presidencies: Black, Woods and McNamara. The study revealed a historical characters of "development" and "development finances". (2) The project studied the relation between the development finances on one hand, and the international BOP adjustment and capital movement on the other. It has been made clear that the "development" and "aid" played a predominant role in regime changes of the international financial order. (3) The reaction of the borrower countries from the World Bank, as well as the countries in charge of fund raising for the Bank, has been researched standing upon the case studies on Japan, Germany and Italy.

研究分野：経済史

キーワード：開発金融 世界銀行 国際資本移動 国際金融市場 経済成長 ユーロカレンシー市場 プレトンウッズ体制 開発経済学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

開発金融、およびその世界的な中軸を担う世界銀行については、研究開始の当初まで開発経済学・金融論の視点から研究が蓄積されてきた。他方で、アーカイブ資料にもとづく本格的な歴史研究は、世界銀行の公式通史( Edward Mason and Robert Asher, *The World Bank since Bretton Woods*, Brookings Institution, Washington D.C., 1973; Devesh Kapur, John Lewis and Richard Webb, eds., *The World Bank, Its First Half Century*, 2 vols., Brookings Institution, Washington D.C., 1997.) が公刊されるにとどまり、国内・国外ともに立ち遅れていた。

他方、開発金融史に関連する国際金融・開発主義等に係る領域では、歴史研究・社会科学研究が進展していた。すなわち、国際金融の歴史研究は内外の重厚な蓄積を継承しつつ、近年はとりわけ国際金融機関史について進展している。国際通貨基金(IMF)については IMF が為替制限撤廃前の 14 条国を対象に発動してきたコンサルテーションについて、歴史文書に立脚した比較研究が研究代表者・分担者らの手で完成している(K.Yago/M. Itoh/Y. Asai (eds.), *History of the IMF: Organization, Policy and Market*, Springer, June 2015; 伊藤正直・浅井良夫編『戦後 IMF 史 創生と変容』名古屋大学出版会、2014 年 7 月)。この論集に結実した共同研究の視点・経験の世界銀行研究につなげていくことが求められている。国際金融機関史と並んで国際金融史研究の重要な焦点に浮上しているのが資本移動の理論・実証研究である。自由な資本移動・自律的金融政策・固定相場制の関係については、これまで Mandel/Fleming が提唱して Obstfeld/Taylor が展開した「トリレンマ」論が支配的な枠組みだったが、近年はこの「トリレンマ」論を拡張して政治経済学やより広義の歴史研究に接続しようとする試みが Michael Bordo らによって展開されている(Michael Bordo and Harold James, “Capital Flows and Domestic and International Order: Trilemmas from Macroeconomics to Political Economy and International Relations”, NBER Working Paper, 21017, 2015)。その動向について研究代表者は 2015 年 8 月に京都で開催された世界経済史会議において、セッション報告を担当しつつ Bordo 氏らと最新のフォローアップを行った。こうして研究代表者は、戦後の資本移動を開発金融という経路で担った世界銀行に即して、この新たな「トリレンマ」論をあらためて展開する可能性に想到した。開発主義の歴史的起源については内外ともに研究蓄積があるが、なかでも開発思想の生成を国際金融史の文脈とかわらせて展開した Michele Alacevitch, *The Political Economy of the World Bank: the Early Years*, IBRD, 2009、またブレトンウッズ体制の成立期における開発思想の役割を論じた Eric Helleiner, *Forgotten Foundations of Bretton Woods: International Development and the Making of the Postwar Order*, Cornell University Press, 2014 は、本研究課題にとっても重要な先行研究である。本研究課題は、これらの先行研究で思想的・理論的に解明された成果を経済史・金融史の文脈と発展的に関連させていくことを目標に設定した。

### 2. 研究の目的

本研究の課題は国際復興開発銀行(世界銀行グループ、以下世銀と略)を対象に、第二次大戦後の開発金融の歴史的展開をあきらかにすることである。世銀は、資本移動が制約されていた第二次大戦直後にあって、アメリカ合衆国による援助とともに、資本主義世界の復興・開発を後押しした開発金融の軸心をなしていた。しかしながら、世銀の経営実態、開発思想、さらには借入れ国との関係については、一次資料に基づく本格的な歴史研究はこれまで必ずしも十分ではなかった。本研究課題は、世銀アーカイブをはじめとする歴史文書を探索し、世銀の活動を通じて「開発金融」という実践が成立・展開してくる過程を以下の諸点に留意しながら検証する。すなわち(1)世銀と各国(日本、ドイツ、フランス、イタリア等)の交渉過程、(2)世銀とアメリカ政府の援助政策をめぐる対抗と妥協、(3)世銀と国際通貨・金融システムとの内在的關係、である。

### 3. 研究の方法

本研究課題では以下の三つの方法的視点を設定した。

第一に、開発金融、あるいはより広く「開発」という構想そのものを長期の歴史的スパンで検討する課題である。

第二に、開発金融の展開を国際通貨・金融システムと内的に関連させて検証する課題である。

第三に、世界銀行による借款を受け入れた側(あるいは資金調達を担った側)の対応を歴史的に検証する課題である。

本研究では世界銀行アーカイブをはじめとする一次資料にアクセスし、徹底的な資料収集を通じて研究目的に接近し、研究目的に係る学説・理論・思想について、文献研究および同時代の公刊資料等の研究により解明することを試みた。このように本研究では伝統的な史料批判を通じたアーカイブ資料分析と、現代的な言説・表象分析をも視野におさめた文献的研究を融合させた方法を採用した。上記の方法に沿った計画的な資料・文献収集とその分析、成果発表を 3 年次にわたって展開したのが本研究課題である。

### 4. 研究成果

本研究課題が「開発金融史のフロンティア」として提示した第一の領域は、「開発」の思想的・歴史的背景である。本研究課題では、開発金融の思想と実践について、1950-60 年代

に世銀総裁を務めたブラック・ウッズ・マクナマラ各総裁の在任中に変転した融資方針と開発政策に即して検証された。また世銀に大きな影響をおよぼしたアメリカについて、第2次世界大戦の戦時在外余剰資産の在外処分、および武器貸与援助(Lend-Lease)の清算問題が対外援助の事実上の出発点をなしたことが、なおかつ世銀の融資政策の変転と共鳴しつつ、アメリカの側でも1950年代にグレイ報告(1950年)、ランドール委員会報告(1954年)、ドレイパー委員会報告(1959年)が次々とあらわれて援助政策の変化を主導したことが立証された。この領域では、「開発」「開発金融」の歴史性が改めて強調された。

本研究課題の第二の領域は、開発金融と国際収支調整・国際資本移動との内的な関連である。世銀が姉妹機関IDAを設け、ソフト・ローンに乗り出したときにドナー(援助提供者)の側に立った国々をさしあたり「先進国」と位置付けると、これら先進国が世銀借款から「卒業」する過程は、第2次大戦後の国際資本市場の復活の過程と重なっていた。そこには、交換性の回復後の国際金融市場の「民営化」、貿易金融と援助の複雑な関係、さらにはドル危機による対先進国借款の終焉へとつながる問題状況が見いだされた。この事態をアメリカ側からみると、国際収支の状況変化に応じ、アメリカの開発援助/融資政策は二国間援助から多国間援助へとその方式をシフトさせていったことが実証された。国際通貨体制の変転については従来から豊富な研究があるが、ここでは「開発」「援助」といった変数がこうした体制転換(regime change)に大きな役割を果たしていたことが示された。

経済史研究に立脚する本研究課題の第三の領域は、世界銀行による借款を受け入れた側(あるいは資金調達を担った側)の国民国家としての対応である。本研究課題では欧州の対照的な2カ国、すなわちドイツ(当時の西ドイツ)とイタリアについて成果を得た。ドイツについては、世銀の資本金解除とドイツの通貨・貿易政策の関連、世銀の融資プロジェクトへのドイツの民間企業の参画、「冷戦」状況における国際政治・外交面の変化がドイツの開発援助政策の形成に与えた影響、等が検出された。イタリアについては、通貨安定=インフレ抑制・財政赤字削減と国際収支均衡を最優先課題としつつ、1950年代を通して通貨の安定性を堅持したこと、1949年に世銀エコノミストのローゼンシュタイン=ロダンがイタリアの南北の経済格差問題に着目し長期の南伊開発計画向け融資を勧告して「インパクト・ローン」概念を提案したこと等が描出された。一見すると対照的なドイツ・イタリアでは(あるいは日本も)通貨安定は最優先の政策目標であり、ブレトンウッズ体制の下での「成長」には今日からふりかえると大きな制約があったことが明示された。

研究期間の初年度にあたる2017年度においては、研究課題の基礎となる資料収集を系統的に行い、また研究代表者・分担者のスタートアップをふまえて学会パネルを組織した。その概要は以下の通りである。当年度の夏に米国国立文書館(ワシントン)およびジョンソン大統領図書館(オースチン)に出張して世界銀行の政策・理論にかかわる一次資料を収集した。米国国立文書館では世銀の対日政策・アメリカと世銀とのかかわりを中心に、研究課題に裨益する重要な資料が獲得された。ジョンソン大統領図書館では、当該大統領在任期(1963-68年)の財務長官ファウラーの文書、世銀総裁を務めたマクナマラ(前国防長官)の文書、またアメリカの開発政策にかかわる資料を収集した。あわせて、ニューヨークの国連文書等も獲得した。社会経済史学会全国大会(慶応義塾大学)において世銀の政策形成に関するパネルを組織した。パネルでは、研究代表者・矢後、研究分担者・浅井、須藤が報告を担当し、他分野の研究者にもコメントを仰いで、当研究課題の問題構成をひろく学会に発信した。早稲田大学において経済成長と開発政策をめぐる国際研究集会を開催し、フランス、中国、カナダ、ノルウェー等から研究者を招聘して国際共同研究を行った。上記の研究活動のほか、研究会を組織して研究の進捗を相互に点検し、所要の研究目標を達成した。研究会では、世銀の対日借款、1960年代のドイツ資本市場、アメリカの戦後武器譲渡と対外援助、世銀とOECDの関連などがテーマとして取り上げられた。進展のあった主題について、研究代表者・分担者がそれぞれの成果を国際的な著作も含めた媒体に発表した。

研究期間の2年次にあたる2018年度は、初年度に獲得した資料を精査・分析した上で、あらたな体系化と成果の中間的発表に注力した。当初の課題をふまえつつ、開発金融と国際資本移動の内的な関連をあきらかにするという視点が一層明確にされた。研究活動の概要は以下の通りである。2018年8月に開催された世界経済史会議ボストン大会に研究代表者・矢後が参加し、セッション報告を担当した。報告では、開発金融と国際通貨システム、オイル・ショックとの関連を取り上げた。矢後は複数のセッションでオーガナイザーをつとめ、オックスフォード大学シェンク教授、ルント大学アルタムラ研究員らと国際共同研究を推進した。2018年8月に研究代表者・矢後がパリのOECD本部に出張し、OECDの開発援助委員会(DAC)に関わる一次資料を獲得した。これらの資料は今後の研究に直接裨益する国際資本移動に関わる情報を含んでいる。2018年8月に研究分担者・浅井、須藤、石坂が米国・ニクソン大統領図書館に出張して、1970年代の国際資本移動と開発金融に関わる資料を調査した。2018年10月に開催された政治経済学・経済史学会秋季学術大会(一橋大学)において研究分担者・伊藤、石坂、西川がパネル報告「第二次大戦後の国際収支問題と開発金融 1950年代から60年代を中心に」を行った。当該パネルでは隣接領域の研究者からも多数の参加を得て、研究の基礎視角をめぐって活発な討議がかわされた。上記パネルを中心に、研究グループの研究会・打ち合わせを名古屋大学および早稲田大学で開催した。

上記に係る研究成果を内外の学会誌・学会報告で発表した。

研究期間の最終年度である 2019 年度においては、成果とりまとめに向けて、研究の総括に注力した。具体的には、1950-60 年代における国際資本移動の実態について、前年度に獲得した DAC 資料などを基礎に見通しを得た、1960 年代以降の国際資本移動と開発金融の関係について、これまで獲得した資料をもとに、地域・機関などに即した類型的な整理を行った、同時代の国際通貨理論・国際通貨システム構想についてニクソン大統領文書等をもとに展開した、上記をふまえて、援助・被援助の各国別に歴史的状況を叙述し、体系的な展望を構想した。上記に係る研究成果を内外の学会誌・学会報告で発表した。(以上)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kazuhiko Yago	4. 巻 9-10
2. 論文標題 External Conditions for National Pattern of Development: The World Bank Lending and the Postwar Japanese Growth (1952-1967)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revue Francaise d' Histoire Economique	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kazuhiko Yago	4. 巻 11-12
2. 論文標題 Japanese Aid and Economic Growth during the 1960s and early 1970s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Revue Francaise d' Histoire Economique	6. 最初と最後の頁 204-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kazuhiko Yago	4. 巻 -
2. 論文標題 Convergence and Divergence Over the Growth Paradigm: The OECD Working Party 2 And Japan's Doubling National Income Plan (1961-1970)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue Economique	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 226
2. 論文標題 1960年代の世銀借款と国際資本市場 (上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 成城大学『経済研究』	6. 最初と最後の頁 1-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 228
2. 論文標題 1960年代の世銀借款と国際資本市場(下)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城大学『経済研究』	6. 最初と最後の頁 1-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 32
2. 論文標題 貿易・為替自由化をめぐる国際政治経済 - 1949~64年	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交資料館報	6. 最初と最後の頁 77-95
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川輝	4. 巻 70-1
2. 論文標題 ブレトンウッズ体制期における開発援助政策の形成 国際収支問題との関連性に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコノミア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiko Yago	4. 巻 13
2. 論文標題 La Banque de Tokyo, 1947-1995: des logiques imperiales et internationales aux strategies globales	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Monde(s), histoire, espaces, relations	6. 最初と最後の頁 89-106
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiko Yago	4. 巻 1-2
2. 論文標題 Translated Economic Paradigms: World Bank Lending and the Japanese Growth in the 1950s and 1960s	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revue Française d'Histoire Economique	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢後和彦	4. 巻 53
2. 論文標題 戦後再編期の世界銀行 融資方針の転換過程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業経営	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 23
2. 論文標題 現代日本経済と新自由主義 - 経済史の観点からの考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報 日本現代史	6. 最初と最後の頁 10-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 32
2. 論文標題 貿易・為替自由化をめぐる国際政治経済	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交史料館報	6. 最初と最後の頁 77-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤功	4. 巻 第87巻第1・2号
2. 論文標題 武器貸与援助とその清算 戦後アメリカ対外経済援助の起点として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治大学『政経論叢』	6. 最初と最後の頁 91-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 218
2. 論文標題 高度成長初期の世銀借款 1957-1961年	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 成城大学『経済研究』	6. 最初と最後の頁 183-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井良夫	4. 巻 278
2. 論文標題 戦後日本の復興と土木事業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Consultant	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 浅井良夫
2. 発表標題 1960年代の対日世銀借款と国際資本市場
3. 学会等名 日本金融学会歴史部会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 浅井良夫
2. 発表標題 1970年代の東アジア工業化と日本 - 東アジア経済史研究からの示唆 -
3. 学会等名 占領・戦後史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiko Yago
2. 発表標題 Convergence and Divergence over the Growth Paradigm: the OECD Working Party 2 and Japan's Doubling National Income Plan (1961-1970)
3. 学会等名 XVIII World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiko Yago
2. 発表標題 Petrodollar Recycling: a longer perspective
3. 学会等名 XVIII World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiko Yago
2. 発表標題 Learning to Swim in the Ocean: How could the floating exchange rate system manage international liquidity
3. 学会等名 XVIII World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiko Yago
2. 発表標題 The Memory of Deflation: the Japanese Experience in a Global Context
3. 学会等名 XVIII World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢後和彦
2. 発表標題 中国・韓国現代金融史の論点 城山智子氏、李明輝氏の近業をてがかりに
3. 学会等名 金融学会歴史部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須藤功
2. 発表標題 武器貸与援助とその清算 戦後アメリカ対外経済援助の起点として
3. 学会等名 現代金融研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石坂綾子
2. 発表標題 戦後ドイツにおける開発援助政策の形成
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤カンナ
2. 発表標題 戦後イタリアの開発計画
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤カンナ
2. 発表標題 戦後イタリアの開発計画と国際協調
3. 学会等名 イタリア近現代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤カンナ
2. 発表標題 イタリアの「奇跡の成長」と国際協調
3. 学会等名 南欧研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西川輝
2. 発表標題 戦後アメリカの開発金融政策
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢後和彦
2. 発表標題 開発援助の形成過程
3. 学会等名 社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅井良夫
2. 発表標題 1950年代日本の「開発」と世銀借款
3. 学会等名 社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須藤功
2. 発表標題 アメリカの対外援助政策の形成過程 戦時在外余剰資産処分および米州関係協会の活動を起点として
3. 学会等名 社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤カンナ
2. 発表標題 イタリアの戦後復興と国際協調
3. 学会等名 名古屋大学課題設定型ワークショップ
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 Hugh Rockoff, Isao Suto et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 192
3. 書名 Coping with financial crises : some lessons from economic history	

1. 著者名 Guibourg Delamotte, Kazuhiko Yago et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 218
3. 書名 Japan's World Power	

1. 著者名 Matthieu Leimgruber, Matthias Schmelzer, Kazuhiko Yago et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 363
3. 書名 The OECD and the International Political Economy since 1948	

1. 著者名 谷口明丈・須藤功	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 568
3. 書名 現代アメリカ経済史 「問題大国」の出現	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 カンナ  (Itoh Kanna)  (30334999)	名古屋大学・経済学研究科・准教授    (13901)	
研究分担者	西川 輝  (Nishikawa Teru)  (30622633)	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・准教授    (12701)	
研究分担者	浅井 良夫  (Asai Yoshio)  (40101620)	成城大学・経済学部・教授    (32630)	
研究分担者	石坂 綾子  (Ishizaka Ayako)  (40329834)	愛知淑徳大学・ビジネス学部・教授    (33921)	
研究分担者	須藤 功  (Suto Isao)  (90179284)	明治大学・政治経済学部・専任教授    (32682)	